

教員名	松崎 毅 (MATSUZAKI Takeshi)
所 属	文教育学部言語文化学科英語圏・欧州言語文化講座
学 位	文学修士 (1985 東京都立大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	

◆研究キーワード

17世紀 / 詩 / 王党派 / 宗教詩 / 隠蔽

◆主要業績

総数 (1) 件

・「私」の沈黙が語るもの — "The World"における「説教師」のペルソナ『英文學研究』Vol.82 1-13 日本英文學會

◆研究内容

ここ数年は科研費研究との絡みがあり、17世紀イギリス王党派文学をジャンルの使用という観点から研究している。内乱における敗北と議会派政府による言論統制という抑圧的な政治状況下に、イギリス王党派文学は政治的に不穏当な言説を偽装する手段として極めて巧妙にジャンルを使用した。これは、テキストの読みが社会構築された解釈の枠組みに依存するものにすぎないという事実を実証するとともに、解釈の枠組みがどのように社会構築されるか、またそれがいかに意図的に構築されうるかという問題に大きな手掛かりを与える。17年度は、宗教詩における「私的な祈り」という解釈の枠組みが、政治的・公的言説の偽装としてどのように機能するか、また、牧歌というジャンルがジャンル自体のもつコードを通じ、一見してアポリティカルなテキストのなかにどのように政治的・公的言説を生成するかという問題を中心に研究を行った。研究成果は、宗教詩に関する研究を論文として発表したほか、18年度の研究と併せ、科研費報告書にて発表の予定。

◆教育内容

コア英語科目は、近年の学部生の語彙力低下に歯止めをかけるため、単語・熟語等の小テストを増やし、語彙拡充を特に重点的に行った。学部専門科目は「英米文学演習(中級)」でJohn BunyanのThe Pilgrim's Progressをテキストとし、聖書・教会・ピューリタニズムなど、英語圏文化のバックボーンとしてのキリスト教について学生の理解を深めるとともに、この作品のジャンル上の特異性とその文学史的意義を考察した。卒論はJane Eyreを研究対象とする学生2名とThe Turn of the Screwを研究対象とする学生1名を指導した。大学院博士前期課程では、イギリス内乱期王党派の政治詩を扱い、作品を1640年代の政治的・論争的文脈に即して可能な限り精密に読み解くと共に、この時期の王党派詩に特徴的な隠蔽的レトリックのありかたを考察した。この授業では比較歴史学コースの聴講を受け入れた。

◆将来の研究計画・研究の展望

17世紀イギリス文学のジャンル研究では、これまで、唄、俗謡、連禱、哀歌、牧歌、恋愛詩、瞑想詩、宗教詩等についてその隠蔽的機能を検証してきたが、これらは大半が詩であり、散文のジャンルについては十分な考察が行われていない。今後は、対話編、指南書、大全等の実用書を含む散文ジャンルの考察を行い、これらのジャンルの振る舞い、特に偽装としてそれらが果たした機能を検証したい。そのうえで、17世紀王党派文学がジャンルという社会構築的な解釈の枠組みを極めて戦略的に使用していた事実を明らかにしたい。

◆受験生等へのメッセージ

豊かな言語表現能力と言語に対する鋭い感受性を持つ皆さんを待っています。